

## 『イエスは知っていた』(ヨハネの福音書 6章 60-71節) 2020.10.25.

<はじめに> パンの奇跡から始まった6章の一連の物語の終局です。53節以下のイエスの言葉は、イエスが彼らに伝えたい真理を率直に表したのですが、聞いていた弟子たちに強い嫌悪と反発、動揺を与えます(60)。しかし、彼らの反応さえイエスは「初めから知っておられた」(64)のです。

### I 信じない者たちが誰か(60-66)

#### ①肉は益をもたらさない(63)

律法で厳に禁じられている「血を飲む」ことをイエスが説いたのに、弟子たちはつまづき文句を言います(60-61)。彼らは依然として実際の飲食の概念にとらわれていました。63節の「肉」は「(御)霊」の対比語で、イエスは彼らに何とかそこから脱するようにと語られます。

#### ②信じるか、信じないか

どうすれば人は信じるのでしょうか。論理的に納得する証拠と説明があり、自分も同じ見解ならば、素直に受け入れることができます。では、話の内容は不可解でも、なお信じる道はあるでしょうか。「ことばは霊であり、またいのちです」(63)を思い巡らしましょう。

#### ③初めから知っておられたイエス(64-66)

救い主が人の罪のために死ぬことはメシア預言の神髄(イザヤ 53:3-6,8)で、人はこれを信じずに拒絶することまで予告されています。その如く「肉」に頼む弟子はイエスから離れ去りました。しかし神は今もご自身に引き寄せようと、ことば・霊をもって働き掛けられます。

### II 裏切る者が誰か(67-71)

#### ①シモン・ペテロの告白(67-69)

イエスを王にしようとし押し寄せる群衆(15)が一夜で霧散したこの状況で、イエスは12弟子も同調するのかと問われます。シモン・ペテロは代表してイエスへの信頼を告白します。それは、彼らはイエスのことばを理解・納得できたからでしょうか。

#### ②わたしが選んだ(70-71)

イエスの選び・予知を運命的な不可避なものを受け取ってはなりません。選びは招きです。選ばれましたが、それに応じるか否かは本人の意志・選択です。そこに道徳性・善悪が生じます。イエスは悪魔を選んだのではなく、選ばれた者が主に逆らう道を選んだのです。

#### ③理解を越えた信頼へ

イエスのことばを聞いて、示そうとされた主の十字架の真理を12弟子が悟れませんでした(ルカ 9:44-45 他)。でも彼らはイエスを神の聖者(すなわち救い主)と信じ、ついて行きます。主も彼らの応答を喜ばれたことでしょう。これは私たちの信仰のモデルです。

### III 何をしようとしているのか(1-13)

#### ①イエスの意図・目的(6)

本章初めの奇跡に戻ります。6節の「何を」が、僅かな食料で群衆を満腹にする奇跡を指しているだけでしょうか。その後の対話を通してご自身が天から下って来たいのちのパンであることを告げ、ご自身の肉と血を与えるため十字架に進まれることを指しています。

#### ②望むだけ与えられる(11)

イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげられたように、十字架でご自身のいのちを与えることを心から願っておられます。そして求める者には望むだけ与えられます。私たちが主イエスに必要でも赦しでも、何事でも大胆に願ひ求めることをイエスは待っておられます。

#### ③一つも無駄にならないように(12)

パンで満腹になった人々は、その後主が語られたことばを食べ残して去りました。しかし、12弟子はそのことばを拾い集め、主を信じました。主のことばは無駄ではなかったのです。イエスはパンくず、人に捨てられた石(詩篇 118:22-24)です。

<おわりに> パンの奇跡自体は四福音書すべてに記されていますが、後日譚はヨハネのみです。そこでイエスご自身が何者で、何を為し、伝え、期待されたのかが分かります。同じものを見聞きした者たちが二分されています。このイエスとともにあなたは歩いて行きますか。(H.M.)